

平成30年度 ティーンズミーティングの概要

平成21年12月に制定した尼崎市子どもの育ち支援条例をもとに、尼崎市が「子どもたち一人ひとりが大切にされて、たくさんの人に支えられて育つまち」になるための取組の一つとして、子どもの目線で社会はどう見えているのかなどを知り、市の行政や地域の大人の取組に活かすために、平成23年度よりティーンズミーティングを開き、小・中学生・高校生の思いや考えを聴いています。

平成30年度はこれまでに引き続き、7月から11月かけて高等学校3校と特別支援学校1校で各1回、10人程度のグループをつくり、「つながり」をキーワードにティーンズミーティングを開催しました。〈高校生31人に意見を聴きました。〉

「平成30年度ティーンズミーティング開催結果」の詳しい内容については、尼崎市ホームページの「ティーンズミーティング開催事業」をご覧ください。



暮らし・手続き 学び・文化・スポーツ 産業・ビジネス 市政情報 イベント 施設

現在の位置: トップページ > 市政情報 > 市が考える尼崎 > 子ども関連施策 > 尼崎市子どもの育ち支援条例 > 条例の理念実現のための取組 > ティーンズミーティング開催事業

条例の理念実現のための取組

- ▶ 地域社会の子育て機能向上支援事業（子育てコミュニティソーシャルワーク）
- ▶ 子ども家庭相談支援体制整備事業（スクールソーシャルワーク）
- ▶ ティーンズミーティング開催事業

ティーンズミーティング開催事業

この事業は、条例の理念を実現していく取組の一端であり、平成23年度学校・中学校の子どもを対象に、広く思いや考えを聴こうとするもので、子ども同士の話し合いを通じて、思いや考えを聴くことにより、「子ども目線で社会はどう見えているのか。」「子ども同士の関係を子どもはどうとらえているのか。」を把握し、(1)必要に応じて、子どもの視点から見た、子どものニーズを踏まえた子ども関連事業の構築などにつなげるとともに、(2)地域住民などが、子どもの思いや考えを知ることにより、子どもの育ちに関心をもち、関わる可能性を高めることを目的としています。

開催結果

平成30年度

- ▶ [平成30年度ティーンズミーティング開催結果](#) (PDF 143.8KB)
- ▶ [平成30年度ティーンズミーティングの概要](#) (PDF 1.1MB)

Click!

こちらから
ご覧ください！





テーマ1「地域の大人に改善してもらいたいこと」

(1) 地域の大人に改善してもらいたいことってどんなこと？

- | | |
|--|---|
| <p>① 街灯を増やしてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 街灯が少なくて暗い。 <p>② 道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段差があるところを無くしてほしい。 ・ 細い道なのに一方通行のところが少ない。 ・ 道がガタガタしている。 ・ カーブミラーがくもっている。 <p>③ バスが車椅子には狭いので、広くしてほしい。</p> <p>④ 防災の意識を変えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災グッズを蓄えてほしい。 ・ 避難場所を見直してほしい。 | <p>⑤ 自転車のマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐輪のマナーが悪い。(車道・歩道にも停めてある) ・ 乗り方のマナーが悪い。(無灯火、イヤホン、信号無視、スマホ、タバコを吸いながら、スピード) <p>⑥ タバコのマナーが悪い。(歩きタバコ)</p> <p>⑦ ゴミが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 捨てる場所が無い。 ・ 美化活動を強化してほしい。 <p>⑧ 公衆トイレが少ない。どこにあるか分かりにくい。</p> <p>⑨ 移動支援の福祉サービスがあったらいい。</p> |
|--|---|

(2) どうすれば改善しやすくなると思いますか？

大人

- ① 危険な場所に看板を設置したり、旗を置く。
- ② 通勤、通学時間帯の一方通行化。
- ⑥ 歩きタバコ禁止の条例をより厳しくする。
- ⑦ 回覧板を活用し、美化活動の実施を呼びかける。
- ⑧ トイレの場所を示す看板を作成する。

大人・子ども

- ② 段差や通りにくいところがあったら、しっかり市に伝える。他にもそれで困っている人がいないか聞いて、みんなで声をあげていく。
- ④ 避難場所の現場に行ってみて、見直します。
- ⑤ 黄色だったら「いける！」ではなく白線まで行きそうだったら、しっかり止まるなどマナーをしっかり守る。

子ども

- ① 暗くて危険な道を学校で調査し、まとめて市役所へ言う。
- ④ 津波対策ハザードマップを作成し、災害の危険性を知っておく。
- ⑤ 子どもに書いてもらったポスターを地面に貼る。
- ⑦ 清掃活動を皆でする。



テーマ2「18歳からの選挙への参加について」

(1) 投票に行くメリットと行かないデメリットって？

《投票に行くメリット》

- ・ 政治への意識が高まる。
- ・ 国民の権利を行使できる。
- ・ 投票をすれば結果を批判できる。
- ・ 意見が政策に反映される。

《投票に行かないデメリット》

- ・ 選ばれる人に偏りがでる。
- ・ 汚職などがあった場合、批判できない。
- ・ 投票に行った人だけの意見が反映されたまちなになる。
- ・ 政治の内容に納得できなくなる。

(2) 若者が選挙に行くようになるには、どうすればいいと思う？

大人

- ・ インターネット投票できるようにする。
- ・ 投票会場に尼崎の歴史などの大きい掲示をする。
→ 見に行くついでに投票する。
- ・ 家族で行きやすいように会場に小さい子向け遊びスペースを置く。
- ・ 選挙に関する専門用語をわかりやすく、具体的にする。
- ・ 候補者の広告をもっとわかりやすいものにする。
- ・ もっと選挙について、子どもに教える。
- ・ 防災メールのように投票時間になったら案内する。
- ・ 選んだ人へのいいところ、選んだ理由を記入するスペースを投票用紙に作る。
- ・ 投票できる年齢層に上限を設ける。
- ・ どこでも投票BOXを作る。
- ・ 体が不自由な方に対して、送迎バスがある。

大人・子ども

- ・ 家で選挙について話す。
- ・ 大人と子どもと一緒に選挙に行くようにする。
- ・ 自分の作った作品(盆栽や工作物など)を展示するスペースを設ける。

子ども

- ・ テレビなどで選挙について学ぶ。
- ・ 学校でも選挙について話す。

尼崎市子ども青少年本部事務局 とも政策課

〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1号

電話番号 06-6489-6341

Eメール ama-kodomoseisaku@city.amagasaki.hyogo.jp

ホームページ <http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/>